

多文化共生時代の災害時対応 ～外国人支援におけるボランティアの役割～

講師： 田村 太郎 氏
(一般財団法人 ダイバーシティ研究所代表理事)

日にち： 2018 年 10 月 9 日 (火)
時間： 午後 7:00～午後 9:00 (開場：午後 6:30)
場所： みなとパーク芝浦 1 階 リーブラホール (港区芝浦 1-16-1)
JR 田町駅芝浦口 徒歩 5 分、地下鉄三田線・浅草線三田駅 A6 出口
徒歩 6 分。(裏面に地図があります)

- ◇ 事前申込み不要。先着 200 人
- ◇ 参加費無料

今年 6 月には大阪で最大震度 6 弱の地震が起きました。

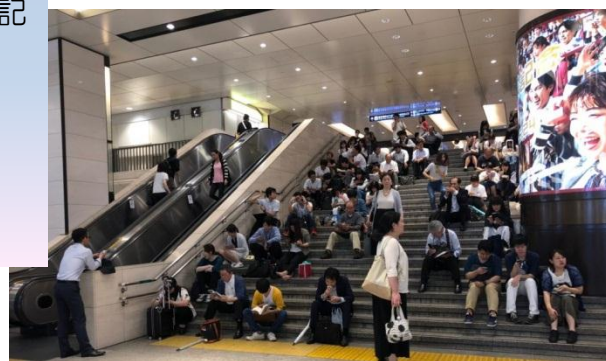
通勤途中や買い物中、外出先で地震に遭遇したときに、言葉や対応で苦労する外国人を見かけたら…。多言語支援センターや避難所でボランティアとして支援をすることになったら…。

阪神・淡路大震災直後にいち早く外国人地震情報センターを立ち上げ、以来多文化共生の視点からの情報提供や支援について各地で講演会・研修会を主導し、日本社会をけん引する田村氏に下記のような切り口でお話をうかがいます。

- ・ 近年の災害における外国人対応の事例
- ・ 災害時の外国人支援の留意点
- ・ ボランティアに求められる役割と留意点



(2018 年 6 月 18 日 JR 新大阪駅)
ダイバーシティ研究所 HP より



(2018 年 6 月 18 日 阪急梅田駅)



(2018 年 6 月 18 日 JR 新大阪駅)



主催：港区国際化推進係 電話：03-3578-2565

講師 田村 太郎 氏

伊丹市生まれ。阪神・淡路大震災で被災した外国人への情報提供活動を機に、1995年に設立された「多文化共生センター」で事務局長に就任。同センター代表、(財)自治体国際化協会参事などを経て、2006年より特定非営利法人多文化共生センター大阪代表理事。2007年には「ダイバーシティ研究所」を設立し、CSR(企業の社会責任)や自治体施策を通して人の多様性への配慮がある地域や社会をめざす活動にも取り組んでいる。東日本大震災直後に内閣官房に発足した「震災ボランティア連携室」では企画官に就任。被災地のニーズ把握や震災ボランティア促進のための施策立案に携わった。現在は復興庁復興推進参与を兼任。(全国市町村国際文化研修所 JIAM メルマガ「多文化共生の新時代」著者紹介から引用)

(般財)ダイバーシティ研究所 代表理事
(特)多文化共生マネージャー全国協議会 副代表理事
IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 客員研究員
(特)多文化共生リソースセンター 東海 理事
(公財)チャイルド・ケモ・サポート基金 副理事長
(特)神戸まちづくり研究所 副理事長
(特)プラスアーツ 理事
明治大学大学院兼任講師
復興庁復興推進参与



みなとパーク芝浦への行き方



★JR田町駅芝浦口徒歩
5分

★地下鉄三田線・浅草線
三田駅 A6 出口徒歩 6分



港区国際防災ボランティアとは

災害時に港区で被災した外国人を支援することを目的とした登録ボランティアです。平時は、毎年行われる研修会への出席や区・地域等が主催する防災活動をはじめとするイベント等でボランティア活動を行っています。ご興味のある方は、お電話、または講演会当日に会場受付でお問い合わせください。港区国際化推進係 電話:03-3578-2524、2046、2565